

新市建設計画ってなに？

新市建設計画は、合併に際し、みなさんに合併後のまちづくりに関する将来像をお示しし、これによって合併の適否を判断してもらう、いわば新市の基本計画としての役割を果たすものです。

- ◎まちづくりのための将来構想（基本理念、基本方針等）を定めます。
- ◎基本方針を実現するための主要事業について根本的な事柄を定めます。
- ◎公共的施設の統合整備について定めます。
- ◎合併後の10年間について財政計画を定めます。

新市建設計画は、合併後、新しい市が進んでいく方向を決めるもの、言い換えれば、みなさんの将来を左右する大切なものと言えます。

合併はあくまでも、みなさんが主役です。日々の生活や地域の課題が合併したらどう変わっていくのか、みなさんと共に考えていきたいと思います。



アンケート調査

任意合併協議会では、みなさんが現在お住みになっている市町村の現状や生活行動、行政サービス、また、新市に対する要望などを把握し、新市建設計画に反映させていただくため、1月中にアンケート調査を実施することとしました。お手元に調査票がとどきましたら、ご協力のほどよろしくお願いします。

調査対象 渋川市、伊香保町、小野上村、子持村、赤城村、北橋村在住の18歳以上の男女8,000名

調査方法 郵送による配布、回収

主な調査内容

- ・まちの現況評価
(都市基盤・機能、福祉・健康、教育・文化、産業、市民生活など)
- ・合併後の施策（まちの現況評価と同じ項目）
- ・まちの特性・魅力
- ・将来のまちのイメージ・キーワード



➡『合併学習室』

□地方債残高

あの市町村は借金
だらけで合併した
ら損だという話は
ほんと？

大変失礼な話ですが、「渋川市は中心地の区画整理でお金を掛けすぎて借金が大変だ。合併したら損じゃないか。」なんていうことをいう人がいます。本当にそ

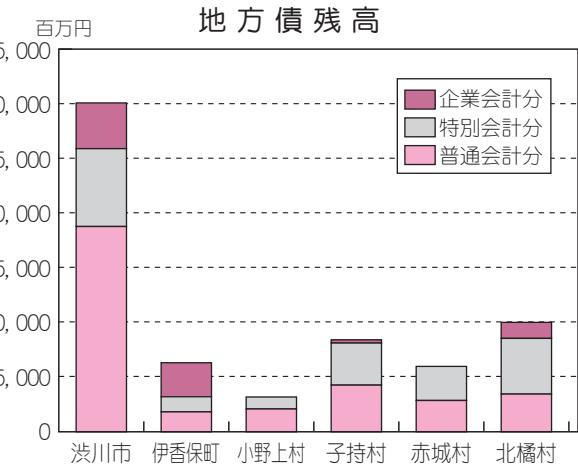
うでしょうか。

実際の地方債残高（借金）は4ページのとおりで、渋川市の場合、総額では大きな額となっていますが、人口1人あたりの額では低い方です。（下表参照）

「それじゃ逆に渋川市民の方が損だ!!」ということになるかといえば、必ずしもそうではありません。

なぜなら、返さなければならない借金のうち、交付税や補助金で何割かが補てんされる（国県からお金がくる）ものもあります。また、起債の種類によって返す期間もまちまちですし、借金をして作った施設や6市町村で持っている基金などの財産もすべて共有の財産となるからです。

長年に渡り、それぞれの市町村が計画を立てて借金をしてきたわけですから、現在という一時点をとらえて、見た目の借金が多い、少ないという話をすることは、あまり意味のないことなのです。



平成14年度末地方債現在高（再掲）

（単位：千円）

	渋川市	伊香保町	小野上村	子持村	赤城村	北橋村	合計
合計	30,143,902	6,328,253	3,190,362	8,426,390	5,993,471	10,029,282	64,111,660
H12国調人口	48,761	4,077	2,140	11,961	12,555	10,301	89,795
一人当り	618	1,552	1,490	704	477	973	713

例えば、ある村の過疎債は約7億円借入残高があり、70%が交付税措置されます。また、ある村の公共用地先行取得等事業債は16億円も残っていますが86%が国県補助金で交付されます。

この場合の実際の村負担額（持ち出し分）を計算してみると

種類	残高	補てんの率	補てん額	実際の負担額
過疎債	7億円	70%	4.9億円	2.1億円
先行取得債	16億円	86%	13.76億円	2.24億円

となります。もちろん村負担分の利子も加算されますが、見た目の数字の割に持ち出し分が少ないとになります。